

堺

妙国寺 (みょうこくじ)

妙国寺(みょうこくじ)は、堺市堺区にある日蓮宗の仏教寺院。森鷗外の小説「堺事件」(明治初年の土佐藩士によるフランス水兵殺傷事件)の舞台となった寺で、事件の責を負った土佐藩士11名が切腹した地。1562年に、当時堺を支配下に置いていた三好一族の三好義賢が、帰依していた頂妙寺の日珖に、寺領を寄進。日珖は、堺の豪商である父・油屋(伊達)常言の援助で伽藍の建立に着手する。1615年の大坂夏の陣



森鷗外の小説「堺事件」の舞台となった

所在地：堺市堺区材木町東 4-1-4

最寄駅：阪堺電軌阪堺線 妙国寺前駅下車 徒歩5分または南海高野

線 堺東駅下車 徒歩20分、大阪駅からの所要時間:45分

利用時間：10：00～16：00 拝観料：400円

TEL：072-233-0369

で、堺の町は火災に見舞われ、伽藍が焼失。元和の町割りにより寺地は縮小されるが、1627年には本堂を再建。以後、客殿、書院などを設け、1659年には三重塔が完成。寛永の頃には寺中に10坊を数えるなど再興。しかし、明治維新後に4坊となるが、明治年間に2坊は他所へ移転。1945年の堺大空襲で伽藍の大半を焼失。三重塔も失われる。その昔、織田信長が、そてつを安土城に移植したところ、毎夜「堺へ帰ろう」と泣いたため、そてつに霊があるのであろうと妙国寺に返したという伝説をもつ。(七堂元敏)